

職長教育にて受講した内容(*項目箇条書き)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ・職長の役割 | ・設備・環境改善の方法 |
| ・指導、教育の進めかた | ・作業方法の改善 |
| ・監督、指示の方法 | ・安全衛生点検、異常時における措置 |
| ・作業手順の定め方、作成方法 | ・災害発生時における処置 |
| ・適正措置の方法 | ・業務上の災害発生のプロセス |
| ・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案 | ・労働安全衛生マネジメントシステム |

講義を受けて感じたこと(具体的に)

講義の初めに職長教育を受ける意味について強く教えていただきました。それは人を死なせない為、部下や仲間を死なせない為、その為に職長教育がある。確かに現場に出ると危険な作業(特に高所作業)はタダであります。本当に死んで欲しくない何度も思つた。だから職長教育の意味は、すんなりと理解できたと思います。強く教えていただけて有難うござります。

作業手順書は現場で書いていますが、過去既に作られたものを参考に仕上げていますので今回の様に一から手順書を作る事、みんなで話し合い意見を出し合い作っていくのは非常にありました。また、パトロールを行うにもテーマを変えながら週々、はぐ然と問題点を捜すのではなく、要點を決め、場所を決め、業者を決めてパトロールを行うというのは参考になりました。

災害事故が起きた場合災害調査と分析を行い対策を立てなければいけませんが、私たちは、災害発生状況調査から問題点の抽出を行い、原因を確定し、その対策を立てていう流れを行いましたが本当に難しく、この様な作業を先輩達はやつづるのだと実感できました。有難うございました。

業務への決意表明(具体的に)

講義を受け、さらにワークを行っていくうちに、何でも自分でやってしまう職長は問題がある事に気付かされました。これは自分にモチベーションで、解決していくなければいけない事だと思ひます。ダメなものは本人に直させる、これが一番大変な所だ"と思ひます。やつづいたいと思ひます。現場で色々な業者さんに会いますが、この人達は本当に危ないなと思う事があります、その人達はやはり職人気質が強く、注意するのも一旦、気が引ける様な人達です、この仕事を始めて5ヶ月でなかなか強く言つ事が出来ませんが、命を守る為に責務的に不安全行動を指導していきたいと思ひます。

- ・職長の役割
 - ・指導、教育の進めかた
 - ・監督、指示の方法
 - ・作業手順の定め方、作成方法
 - ・適正措置の方法
 - ・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案
 - ・設備・環境改善の方法
 - ・作業方法の改善
 - ・安全衛生点検、異常時における措置
 - ・災害発生時における処置
 - ・業務上の災害発生のプロセス
 - ・労働安全衛生マネジメントシステム

講義を受けて感じたこと(具体的に)

今、長崎の現場に来ていて建設業界は未経験なので"正直分からないうことは"かりでして。業界用語分からなかったし、管理の仕事も未知で不透明な部分があることを感じました。しかし今回の職長教育を受けて、管理をする者は何をするべきか、どうあるべきかといふことや"アレズ"つか、できだように思いました。研修期間においても、施行管理は職長、職人とのコミュニケーションが"大切"ということは聞いていましたが、本当にコミュニケーションがこれまで以上に成り立たない事だ"ということを、改めて実感しました。休憩中も話を聞ったり、普段からコミュニケーションをとっていると、仕事中の報連相もやりやすくなるのかなと思いました。最近は技術的、専門的を持って仕事をする機会も増えている。専門的な勉強もしていかなければならぬと焦った部分もありましたが、作業を実際にしてもらう職人さん達が"スムーズ"に仕事を出来たいたい部分もありました。管理する限りの安全に対する意識がとても重要だ"ということが分かりました。自分よりも年上、ペテンの方への接し方等、難しいなと感じました。また仕事をする上で基準、ルールを決めることが大切だと言うことを学びました。今ある現場で決められている基準やルールを改めて確認し、定期的にチェックし、改善していくことを実現していくなと感じました。建設現場では事故も多く、いかにリスクを減らせるかを話し合ってること、事故が"起つてからでは遅く、取りきんとしてあかなければ仕事はスムーズ"に進んでいかないということを学びました。また、作業が終わるとおとこにはねきらいの言葉をかけることを忘れてはならないことが分かりました。

業務への決意表明(具体的に)

未経験で建設業界に入り、分からることは“かりて”管理という仕事をすることに対し、不安がありました。しかし今回の職長教育を受けて、現場ではどういう風に安全への意識を高めなければいいかが“分かりました”。コミュニケーションが大切な仕事ですが、大本の方が“年齢も絶対上なので、仕事をしていく上で”どういう風な伝え方をすれば“いいのか”分からなかつたので“すか”，ちゃんと仕事をする職長さん、職人さんへの敬うじ”を失“れず”に、事故を起さないことを目標に仕事をしていきたいと鬼“います。そのためには仕事中はもちろん、休憩中も色々な方とのコミュニケーションを図り、一つ一つの言動を見ていきたいです。そして作業後にはおさ“らい、感謝の言葉を忘れずに、雰囲気の良い現場づくりで引き続き施工管理になります”いと鬼“います。職人さん達にも諒められるように、1人1人の話を聞いて問題も解決できよう”ついで“いと鬼“います。

職長教育にて受講した内容(*項目箇条書き)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ・職長の役割 | ・設備・環境改善の方法 |
| ・指導、教育の進めかた | ・作業方法の改善 |
| ・監督、指示の方法 | ・安全衛生点検、異常時における措置 |
| ・作業手順の定め方、作成方法 | ・災害発生時における処置 |
| ・適正措置の方法 | ・業務上の災害発生のプロセス |
| ・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案 | ・労働安全衛生マネジメントシステム |

講義を受けて感じたこと(具体的に)

職長教育は現場を指揮し、監督とする今の自分にとても大事で重要な教育だという事が分かりました。特に我々建設業では事故がなく、常に大きなリスクがある状況の中で作業しています。実際に現場で作業する職の方に各工事や作業の中でどのような危険があるか十分に理解をさせる為職長だけでなく、現場で作業する人全員に周知させる事が、災害、事故を未然に防ぐ、一番の手段だと感じました。その他にも仕事の3要素(人・物・作業)を管理し、不安全な状態、不安全行動を早期に発見し、解決する技術、多くの問題を同時に処理し効率よく解決できる能力を今後の工事をしていくから高めていく必要があると思いました。この講義に来る前、作業手順書を自分で作成していく見る人すべてに分かりやすく、理解できる様に書くにはどうしたら良いか良く分かっていなかったので、講義を受けて理解できて良かったです。

業務への決意表明(具体的に)

今回の職長教育で職長の役割から自分が行っている業務だけではまだ「職長、現場を指揮する事に足りない事がたくさんある」と感じました。その中でも特に報告、連絡、相談がいかに大事かが理解できました。仕事を推進させる為に職場において異常の早期発見し、分からぬ事は逐時上司、先輩に聞いて解決する事が災害を無くすうえでとても重要な事であり、リスクアセスメント、リスクの低減ができると思いました。これから現場経験を積み重ねて、災害ゼロの現場を作り上げていきたいです。

職長教育にて受講した内容(*項目固宋書き)

・職長の役割	・設備・環境改善の方法
・指導、教育の進めかた	・作業方法の改善
・監督、指示の方法	・安全衛生点検、異常時における措置
・作業手順の定め方、作成方法	・災害発生時における処置
・適正措置の方法	・業務上の災害発生のプロセス
・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案	・労働安全衛生マネジメントシステム

講義を受けて感じたこと(具体的に)

・私は、職長の職務について、分かっていなかった。分かってないんだなと感じました。教育の目的で、教訓と実績を目標で実践でまとめてが目的で、教育は人の行動が変わったり、教育には、いつ、変わらなければ、教えるのが裏目で、何より自分の責任なことは、について、理解した。また、今までに、教育していかよと思つていて、では、のは、相手がやると思っていましたが、今回の教育で、その為には間違つてと気が付いた。そしてこれから、教育、行動に活用していくと伝えます。相手に伝えて、行動を見て、できていなかつたら、自分の伝えかたもおかしくはなし、相手が分かはよう改善して、伝えています。作業手順書は、一人で作っていくものだと思つてしまつていいことが多かつたためうなえてしまつたが、講義を受けて、作業手順書は、みんなで作成して行くものだと知りました。1人でやんで、遠くまで作成していくのが遠くで、時間を作つて、金鎖で作成していくと思つました。KTCとリスクアセスメントには違いがあり、KTCが行動等で、リスクアセスメントが設備改善だと言つことを知り、どちらも、同じことだと講義を受ける前まで思つて、それが受けたことで、2つの違いを知り、リスクアセスメントをしっかりとやることで、KTCがする、窓のあき、ものにはすることで、災害へのリスクが減らせるので、取り組んでいきたいと思います。

業務への決意表明(具体的に)

・私は、報告をしないためにも、報告・連絡・相談を確實にしていくと感じます。自分の連絡ミスで、作業を止めたりするためにも、またからでは見つけられ、チラシや基準に違反したことや、一人でかかる場合は自分で、上司等に相談・報告して、ミスをへらしていくとします。一人で「は物」とモヤリとけてるときは、「さすが」と思つていいので、自分自身一人考えたり、ほとんどりせず、経験が豊富な作業員や上司に相談して、つまがけて、毎回災害でやりとげて、いきますとあります。
一人ではなくみんなで、考えていくと、作業を進めていきます。

職長教育にて受講した内容(*項目固栄書き)

・職長の役割	・設備・環境改善の方法
・指導、教育の進めかた	・作業方法の改善
・監督、指示の方法	・安全衛生点検、異常時における措置
・作業手順の定め方、作成方法	・災害発生時における処置
・適正措置の方法	・業務上の災害発生のプロセス
・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案	・労働安全衛生マネジメントシステム

講義を受けて感じたこと(具体的に)

僕は、建設現場で業務をしています。今回の講義を受けて多くのことを学ぶことができたと感じます。1日目に特に学べたことは、「作業手順の定め方」についてです。現場で何気なく見ていた作業手順書には、PDCAのサイクルによってより良い物に作り上げられていると実感しました。また、一人で考える物ではなく、皆さんで5WHを使って考えたため、自分では気づいていない安全面や品質面の管理の成長に繋がると思いました。

2日目は、グレーフィースカッシュなどが多くて、たくさんの人の意見を聞いて色々な考え方を学びました。特にリスクアセスメントは時間をかけて常備災害について考えることが出来ました。現場の中の異常を早期に発見してゼロ災害を目指していくようにしていきます。

業務への決意表明(具体的に)

現場の中で学んで来た物が講義の中で出てきました。しかし、それよりまだ「学び足りない」ことが多くありました。自分より年齢や経験が上の人たちと管理するため、指示の伝え方やコミュニケーションの取り方を考えて現場に活かせています。他にも、KPI活動を職人さんとより良くして、作業手順書を見て安全に作業をしていきながら今まで以上に管理していきます。

2日間講義を受けてまだ自分の成長に繋がると思いました。忘れないように復習や実践を心がけて業務をより良くしていきます。

職長教育にて受講した内容(*項目箇条書き)

・職長の役割	・設備・環境改善の方法
・指導、教育の進めかた	・作業方法の改善
・監督、指示の方法	・安全衛生点検、異常時における措置
・作業手順の定め方、作成方法	・災害発生時における処置
・適正措置の方法	・業務上の災害発生のプロセス
・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案	・労働安全衛生マネジメントシステム

講義を受けて感じたこと(具体的に)

1日目の講義を受けて改めて職長という役職は大変だと思いました。今回学べて良かった事は、監督力という言葉です。学ぶまでは、職長には、知識技能のかぎり問題解決力など仕事の部分だけが必要だと思っていました。しかし、コミュニケーション能力や人育てる力も必要との事で人間性もみかれていました。また、ワークショップでは、様々な意見が出てまとめるのがとても大変でした。

2日目の講義を受けて感じた事は、話し合いをする際の時間の管理がとても難しく感じました。ワークショップにて色々な意見を出しそれを時間内でまとめると言う事が難しく最初は感じましたが、回数とこなす毎に、意見の質も上がっていきました。時間内に収まるようになりました。

2日間を通して、コミュニケーション能力と意見をまとめる能力の重要性を再度感じました。現場にはまだ出ていませんが、今後出る事があれば、今回の教育で学んだ事を生かしていきたいです。

業務への決意表明(具体的に)

- ・年齢、役職関わらず、コミュニケーションなど、様々な対応能力を身につけます。その為にまずは他人に興味を持つようにします。
- ・今回私が重要なと思った教育、(教えて育てる)と言うことを今後の業務にて意識し、後輩に対して教育していく様子。
- ・日々の生活においてKY-TT、リスクアセスメントを行い、業務にも生かせるようになります。

職長教育にて受講した内容(*項目箇条書き)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ・職長の役割 | ・設備・環境改善の方法 |
| ・指導、教育の進めかた | ・作業方法の改善 |
| ・監督、指示の方法 | ・安全衛生点検、異常時における措置 |
| ・作業手順の定め方、作成方法 | ・災害発生時における処置 |
| ・適正措置の方法 | ・業務上の災害発生のプロセス |
| ・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案 | ・労働安全衛生マネジメントシステム |

講義を受けて感じたこと(具体的に)

職長は自分の仕事もある中で、常に部下の人たちに気を配り、定期的にパトロールをし、指示を出すため、相当忙しく、また周囲をよく気にかけておための集中力の高さが必要だと感じた。私も、現在の現場で土工さんを連れて一緒に仕事をしており、指示を相手に上手く伝わらせるこや、不満な作業を行ってもらうことの難しさはよく分かっているため、そういう話が出た時は共感できた。しかし、自分は報連相を意識しているが、土工さんには報連相をやってもらっていないため、そういうことの指導も今後土工さんを連れる時に取り入れていかなければと思った。

消火活動は現場でも経験しているため、比較的容易に理解できた。
二日目に行った、異常の発見・リスクアセスメントでは、普段あまり意識していない異常やリスクをワークを通して他の人に気づかれたこともあり、異常やリスクに対する知識が増え、これから土工さんたちの管理等に活かそうと思った。また、実際に災害事例研究をワークで行ったことで、災害予防の仕方や災害が起きてしまった時に自分がどのように対処し、どのようにまとめて上へ報告を行なべきか等を学べて勉強になった。

業務への決意表明(具体的に)

これから業務で「私は、自分の仕事にはかり気を取られることなく、周囲の作業員さんたちに気を配り、異常は見つけ次第なくすように努め、リスクを少しでも低減できるように目標し、ゼロ災害に可能な限り近づけていきたい」と思います。そのためにも異常やリスクにどのようなものがあるのか、その知識を増やし、危険予知トレーニングやリスクアセスメントの実施の徹底、パトロールを行う回数を増やして安全な作業環境を心掛けます。
また、作業員さん同士の連携、報連相のしやすい環境にするために、作業員さんとのコミュニケーションの機会を充分にとれるように意識します。

職長教育にて受講した内容(*項目箇条書き)

・職長の役割	・設備・環境改善の方法
・指導、教育の進めかた	・作業方法の改善
・監督、指示の方法	・安全衛生点検、異常時における措置
・作業手順の定め方、作成方法	・災害発生時における処置
・適正措置の方法	・業務上の災害発生のプロセス
・リスクアセスメント、リスクの低減措置の立案	・労働安全衛生マネジメントシステム

講義を受けて感じたこと(具体的に)

今回の講義の目的が「人を死はせないために」ということからしっかりと頭に入りました。監督する立場から、現場を見ることについては、とてもやりがいがあると強く感じました。職員との二つ、現場のこととよく理解していくか、なければいけないなと思ったのです。DVDを見て、問題点をあげると云うのは、自分が「気づいていたはずのやつ」、「問題だとは思っていないから」「ニヒリ」、やってよいではないと「は」、「自分で驚きました。職長が「やらなければいけない」と、(人)「仕事と抱え込まない信頼で他人に任せること、コミュニケーションを取って作業と円滑に進められる」と言いました。打ち合わせをしてから行動する「大切」ということと矢印まで「作業手順書と今ま見たことばかりだった」と、現場へ戻ったら一度確認しておこうと思った。基準の状態を知らずに、理解していないことは、恐いことだと感じました。異常と聞こえないといふと、人が死んでしまうと危険になりうることになると、これが異常と聞こえないと、自分が周りの人も危険になりうることになると、これが異常と聞こえます。しかし基準の状態と合わせて大事だと感じました。安全に災害をゼロにするためには、作業員の入構を防ぐためにコミュニケーションを取り、作業基準を知り、確認を怠らないに、一

業務への決意表明(具体的に)

まず第一に、災害につとめること。ケガとさやけないように、しっかりと監督する。作業前点検、打ち合わせ、KY活動を綿密に行なうこと。忙いからといって、確認を怠らないこと。作業員さんの安全も大事だから、自分の安全管理もししっかり行っていくこと。作業内容をきちんと理解し、作業員の方に納得いくようになります。確認を行なって、最後に確認を怠らなければ、作業員の皆さんがコミュニケーションを取り、作業や円滑に進むようになります。

以上のことを頭に入れ、実行できるように努めます。